"All English授業"ノススメ

長崎県立佐世保北中学校
三溝 由美子，辻川 陽子（執筆），岩坪 正裕

■はじめに

本校は，今年度新たに開校した長崎県初の中高一貫県立中学である。生徒数は３学級120名，現在１年生のみの在籍であり，英語科教員３名プラスALT２名で指導に当たっている。本校には，英語（週３時間・少人数授業）の他に，Communicationという特設教科（週２時間・JTE２名とALT１名によるTeam Teaching）でも英語を学ぶため，生徒たちは毎日英語を学ぶことになる。年度当初の英語科教員の合意に基づき，Communicationの授業は毎時間All Englishで進めている。今回は，１学期間という短い期間の検証ではあるが，このことが生徒に及ぼしつつある効果について報告させていただく。

■チームとして

まず，本校の実践を支えているのは，ALTも含めた５名の英語科教員が，６年後に巣立つ生徒の姿を根本的な所で共有している，という事実である。すなわち，「４技能のバランスの取れた，英語を実際に使える生徒を必ず育てる」という使命感である。All Englishの授業を継続的に実施するにあたり最も必要なことは，こうした根本理念の共有化である。その上で，毎週討議の時間を確保し，次の授業案を作成していく。具体的には，年間指導計画に基づき，英語の授業の進度を先取りする形で，輪番で授業案を持ち寄り検討していく。１学期に取り上げた題材としては，Classroom English，身近な物の名前や身体の部位，ゲーム "Who Am I?"，数字と買い物，自己紹介スピーチ，インタビュー（疑問詞），映画 "E.T."（台詞の朗読大会），ALTの故郷アイルランド紹介などが挙げられる。

■教科書の枠を越えて

中高一貫校の特設教科といっても，何も突飛な内容を扱っているわけではないことが，以上の例でも分かっていただけると思う。ただ，私たちが意図的に行っていることのひとつに，「必要とあらば語彙や文法の面であまり規制を設けない」ということがある。例えば，第１回目の授業では，Classroom Englishを取り上げたが，以下に指導内容の一部を紹介する。

＜Classroom English指導内容例＞

Stand up. / Sit down.
Walk. / Stop walking.
Turn around. / Turn right (left).
Come here.
Raise your hand.
Repeat after me.
Speak up.
Write / Draw ... on the blackboard.
Listen.
Move your desk.
Make pairs / groups of four people.
What is ... in English?

指導手順としては，まずALTが指示を出し，JTEがそれに従って動いて見せた。次に生徒たちが動き，"Simon Says"を楽しんだり，最後にはペアで指示を出し合う所まで持っていった。

次に，５月に取り組んだ自己紹介活動の実践例を紹介する。まず，ALT，JTEの自己紹介を聞いた後，次のフォームの（　　）をうめる形で原稿を作成させた。

＜生徒作品例１＞（原文どおり）

Hello. My name is (Ai Fujinaga). I am from (Tenjin) Elementary School. I live in (Tenjin-cho). I have (one) sister.

I am a member of the (tea ceremony) club.

I like (playing the piano) very much. Especially I like (chopin). I have (played the piano) for (eight) years.

My favorite (pianist) is (Yundi Li). My dream is to (be a teacher of music).

Thank you for listening.

生徒たちはこの段階で，be動詞の学習しかしていなかったが，各自辞書を活用したり，積極的に質問したりして，スピーチ原稿の作成を進めていった（なお，机間指導の際に限り，JTEは日本語も使用することがあった）。発表は，１人ずつ教室の前に出て，原稿を見ないで行った。そこまでたどり着く過程がかなり大変だっただけに，やり遂げた時の生徒たちの表情はとても満足そうであった。

また，ゲーム "Who Am I?" 等では形容詞を導入し，表現の幅を広げられるよう配慮した（例：big, small, long, short, heavy, light, young, old, tall, thin, fat, dead, alive等）。

SELF INTRODUCTION
"Let's make a speech!"
class (2) name (Ai Fujinaga)
Hello.
My name is Ai Fujinaga
I am from Tenjin Elementary School
I live in Tenjin-cho
I have brother(s) and one sister(s).
*I have for. (dog/cat)
I am a member of the tea ceremony club.
I like playing the piano (very much).
*Especially I like chopin
*I have played the piano for eight year(s).
(played/studied)
*My favorite pianist is Yundi Li
My dream is to be a teacher of music
(be a / go to)
Thank you for listening.

＜生徒作品例１の原文ワークシート＞

■ All Englishの授業後のフォロー

先に示した自己紹介の例などは，原稿作りの段階で文字を使ったが，本来Communicationの時間はオーラルだけの活動が多いため，文字が生徒の手元に残らないこともしばしばである。そこで，既習表現の定着を図るため，毎時間必ず，前時の語句を確認する復習クイズを実施している。生徒たちはここで，語句とその意味を文字で確認できる。また，様々な文脈でくり返し同じ語に触れさせることが定着に役立つと考え，内容理解のリスニング・クイズも行っている。さらに定期考査では，これらのクイズをもとに，15分程度のリスニング試験を実施している。以下に７月実施の定期考査の一部を示す。

＜定期考査リスニング問題例＞

（問い）次に聞こえてくるのはベッキーの自己紹介です。よく聞いて，あとの問いに日本語で答えなさい。（放送中，メモを取ってもかまいません。問題文と質問は，２度くり返します。）

（放送内容）

Hello. My name is Becky. I'm from Canada.

I live in a small town in Hokkaido. I live with my grandmother. My grandmother is Japanese. I like my town very much. I like living in a small quiet town. I don't like big cities such as Tokyo or Osaka.

I am a teacher in Hokkaido. I'm a teacher of English. My school is not so big. I teach English to 150 students. They're very nice. My students like English very much.

I am a member of the karate club. I practice karate every day. My dream is to be a karate champion in Canada.

Thank you for listening.

Q1. ベッキーはどこの出身ですか。

Q2. ベッキーが日本での勤務地を北海道に選んだ理由は何ですか。２つ書きなさい。

Q3. ベッキーの仕事は何ですか。

Q4. 何人の生徒に教えていますか。

Q5. ベッキーの夢は何ですか。

生徒の中には，英語の筆記試験は少々苦手だが，リスニングとなると俄然力を発揮する者もいて，そういった生徒に自信を与える貴重な機会ともなっている。

また，高校での取り組みに準じた形で，本校では毎月１回単語検定を実施している。対象となる単語は，①英語の教科書で学習した新出単語，②Communicationの授業で使用した語彙のうち主なもの，③副教材の問題文中で使用され，かつ教科書に登場しない語のうち使用頻度の高いもの，という３分野から成り立っている。現在のところ，つづりを書かせる問題を６割，意味を書かせる問題を４割出題している。生徒は，１回の検定につき100～150語を覚えていくことになるが，全員合格（正答90%以上）するまで再テストを根気強く実施している。

以上をまとめると，指導の流れは，①英語音声のみでのインプットおよびアウトプット，②復習クイズで重要な語彙・表現を文字化して確認，さらに前時とは別のスクリプトでのリスニング活動，③一定期間を置いた後，単語検定の形で意味とつづりの定着を図る，④定期考査での到達度評価，となる。

■All English授業の波及効果

１学期も終わりの頃になると，定期考査の中の自己表現的英作文や，英語の授業時に行うちょっとした表現活動（３人称を使ったクラスメートや家族の紹介など）でも，以前Communicationの時間に学習した単語や表現を，生徒が自然にアウトプットする場面が見られるようになってきた。なぜなら，生徒の頭の中では，「これは教科書で出た覚えるべき単語，これはCommunicationでしたから覚えなくてよい単語」といった区別は一切なく，どれも同じインプットとして吸収し，定着してきているからである。また，日頃から語彙に制限を設けず，辞書（電子辞書を含む）を使わせているため，中には教師側が驚くような語を見つけて使う生徒もおり，何かと感動する場面も多い。

以下に生徒作品例を示す。

＜生徒作品例２＞（原文どおり）
―第２回定期考査より―
（問い）あなた自身の自己紹介を英文５文で書きなさい。（ヒント：名前，出身地，兄弟姉妹・ペット，好きなこと・もの等）
（例①）
My name is Taisuke Ariyama. I live in Ogawatityo. I like Igo very much. I play Igo every Sunday. I am elementary school Igo chanpion.
（例②）
My name is Kobori shohei. I live in momijigaoka. I have one sister. I have two dogs too. I like sport very much. Especially I like soccer. I am from Daito elementry school. My favorite namber is three and seven and ten. My dream is go to the hawai.

出題予告無しでの英作文なので，細かな間違いはあるものの，例②の生徒などは指示された５文をオーバーして解答欄一杯に書いていた。そのことの是非はともかく，普段おとなしい生徒だっただけに，大変驚いた次第である。

＜生徒作品例３＞（原文どおり）
―he, she, his, her導入時の英作文より―
（例①）
This is my brother. His name is Yuki. He is stubborn. He likes "kaiketsu zorori". His favorite book is "korokoro".
（例②）
His name is Naoki Tsuboi. He is my brother. He is 23 years old. He live in Tokyo. He is a college student. He works in cram school.

また，本校は毎週水曜日を "English Day" と命名し，朝や帰りの短学活を英語で行っている。実はこの取り組み，ある学級担任の先生が提案し，学期の途中から始まったもので，英語科発ではないところがおもしろい。この日は主に英語科職員が教室に出向くが，中には他教科を教える担任の先生が自ら英語を使って連絡事項を伝えるという，ほほえましい

姿も見受けられる。また生徒の方も，日程連絡をする学級委員や翌日の授業連絡をする学芸部の生徒が，懸命に英語で話しており，Communicationの波及効果がこんなところにも及んでいることを実感する。さらには，職員室入室時の挨拶を英語で行う生徒もおり，どちらかというと受験色が濃い高等部に，密かに影響を与えるべく，日々作戦進行中である。

さらに，紹介が最後になったが，本校では毎月英字新聞も発行されている。各記事の最後には，簡単な内容理解問題が日本語で出題され，全問正解すると "Good Job Card" がもらえる。中１にはかなり難しい英文だが，家族の人の助け等もあり，意欲的に解答を提出する生徒も多い。

■これまでの成果と今後

１学期間の取り組みを終えて今私たちが実感していることは，「共に育てる」というチームワークの重要性である。これだけの取り組みを単独でできるかというと，とても無理である。しかし，教師同士が胸襟を開き，ひとつのチームとして機能していくとき，自ずと役割分担が出来上がり，３カ年，６カ年を見通した指導展開が可能となってくる。

そうしたとき，ALTとのTT (Team Teaching)に負けず劣らず自分の力になるのが，実はJTE同士でのAll English TTである。なぜなら，１時間中英語を使うわけだから，お互いが発する英語を包み隠さず聞くことになる。例えば，自分にとって受容語彙に留まっていた語彙をパートナーが発話するのを聞けばハッとする。同じTTのパートナーでも，ALTの使う英語を聞くより，JTEの使う新しい表現を聞いたときのほうが一気に覚えてしまうから不思議である。また，教科書の枠を越え，教師の創造性をフルに発揮して作ったプランを，全生徒に足並みそろえて実施することができれば，最終的には定期考査にも組み込むことが可能となる。そのことにより，教科書から離れた学習活動も，打ち上げ花火的に終わることなく，生徒に発展的な力を保証する，不可欠な活動へと深化していく。

■おわりに

筆者（辻川）がカナダでお世話になった恩師は，アルバータ州でフランス語のImmersion教育を牽引してきた方だった。日本の公立学校で，いつかImmersion教育の理念を実践したいと言った筆者の夢物語のような発言に，ご自身の苦労した経験を引きながら熱い声援を送ってくれた恩師の想いを，筆者は片時も忘れたことはない。あの時植えられた小さな種が，今，素晴らしい同僚と巡り会い，発芽しようとしている。日本の最西端の地で，瞳輝く子どもたちとともに，今日もこの壮大な挑戦に力強く邁進していきたい。

All Englishでの授業風景（中央が岩坪）

TEACHING ENGLISH NOW　別冊
□2004年11月15日発行　□編集・発行人：八幡　統厚　□発行所：株式会社 三省堂
□〒101-8371東京都千代田区三崎町2-22-14　□電話：03(3230)9422
□E-mail：newcrown@sanseido-publ.co.jp　□ホームページ：http://tb.sanseido.co.jp/english/